

### 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2972300129		
法人名	有限会社 サンコーポレーション		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	奈良県宇陀市榛原萩原750番地		
自己評価作成日	平成28年5月16日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;ligosyoCd=2972300129-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;ligosyoCd=2972300129-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成28年6月2日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームひまわりは、近鉄榛原駅から徒歩7～8分で、市の中心部に立地し、緑豊かで、施設の川向いには神社や森があり、四季の変化を楽しむ事が出来ます。スタッフや地域のボランティアの方々による、習字、英会話、お抹茶、盆踊り、スケッチ画等の教室があり、利用者様の楽しみの一つになっています。季節ごとの遠足や食事会にも出かけ、お祭りやイベントにも参加している。食事は新鮮な多くの食材を使った料理を提供し利用者の皆さんの楽しみの一つになっています。アットホームな雰囲気の中で利用者様が安心して、その人らしく余生を送れる様に、職員一同取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、駅や病院、スーパーにも歩いて行ける便利な市の中心部に位置し、平屋の1ユニットのグループホームである。法人は隣接する有料老人ホームも運営している。バリアフリーの玄関を入ると、ダイニングキッチンがあり、南側には広いデッキがある。利用者は地域の季節行事に参加し、多くのボランティアが訪れて地域と交流している。食事はすべて手作りで、地元食材にもこだわり、美味しいと評判である。住みなれた地域の家庭の環境のもとで、その人らしく安心した生活ができるように支援することを目標にしている事業所である。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと動いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1/9		

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>住み慣れた地域で安心して、その人らしく暮らせる様に常に心がける様に理念を共有している</p>	<p>「住みなれた地域の家庭的環境のもとで、その人らしく安心した生活をおくれるように支援する」という理念がつけられ、運営規定に盛り込まれている。職員は理念を共有し、利用者がより生き生き暮らしてもらえるよう努力している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>管理者が地元の自治会に入っており、日常的に交流がある</p>	<p>管理者が自治会に加入し、自治会役員を務めたこともある。利用者は、とんど焼きやえびすまつり、花火大会や秋祭りなど、地域の季節行事を楽しんでいる。多くの地域ボランティアや、中学校や高校の福祉体験実習などを受け入れ、地域と交流をはかっている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>施設内の行事やイベントに、地域の方々に参加していただき、認知症の方に対する理解や支援の方法を見ている</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族の方、市の職員、医療介護安心センター、老人会、自治会、民生委員等の方々に参加していただき、会議を実施し、施設サービスの向上に努めている</p>	<p>運営推進会議には、市の担当職員、地域包括支援センター職員、民生委員、老人会代表、利用者家族などが参加し、開催している。事業報告だけでなく、介護保険制度や感染症対策、災害対策など多くのアドバイスをいただいて、運営に活かしている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>管理者が市の担当者と、常に情報交換を行い、相談等も行い、信頼と協力関係を築く様に努めている</p>	<p>事業所が市役所の近くにあり、市の担当者とは日ごろから密に連絡を取り合って利用者の情報交換を行っている。市から依頼の利用者の受け入れも行っている。市主催の福祉大会や研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>出来る限り身体拘束をしないケアが取り組める様に、あらゆる角度から利用者本意の介護の方法を追及している</p>	<p>玄関は安全のため電子ロックをしているが、ダイニングキッチンに自由に出入りできる広いベランダがあり、気軽に外気にふれることができる。身体拘束をしないケアについて研修を行い、職員で話し合って共有し、実践できるように取り組んでいる。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員が心にゆとりを持ち、利用者様に対して、愛情を持ってケア出来る様にしている。勉強会や情報交換も行い、虐待の防止につとめている</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員が研修に参加し、職員に伝達講習を実施し、個々の必要性、対応について話し合いの機会をもうけている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前説明を十分に行い、利用者様や御家族様の質問にも分かり易く、説明、納得して頂き、改定時は早期に説明を実施しています		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者並びに職員が、利用者様や御家族様とのコミュニケーションをかかさず、運営推進会議等の意見には耳を傾け、反映させている	利用者の半数以上の家族が毎月面会に来られるので、そのとき要望や意見を伺っている。来られない家族には毎月手紙を送るとともに、必要に応じ電話連絡し、要望等を伺っている。	日頃から面談できない家族とは、せめて半年に1回はカンファレンスの機会を持ち、意見や要望を聴き、日常のケアや介護計画の更新に反映さす取り組みがあれば尚よいと思われる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はささいな事でも、職員の意見や提案を受け入れ、一緒に考える機会をもうけている	管理者が常に職員と一緒に活動しながら情報交換をし、職員が気づいたことを聴いている。重要と思われる事項については、月1回行われる会議で話し合い、運営に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し、意見交換を欠かさず、各自が向上心を持ち、のびのび働ける様に配慮している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は働きながら、各種研修に参加するように配慮し、研修内容を伝達講習し、全員で共有できるようにしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、相互訪問の活動を通じて、情報交換や勉強会にも参加し、サービスの向上を図れるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者並びに御家族の情報を元に、職員全体が情報を共有し、利用者の不安を軽減し支援が上手くいくように努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入所をしてもらい、出来るだけ利用者様と御家族様が納得した上で、入居してもらう事になっている。要望や不安な事を十分聞いて、受け入れ体制づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に出来るだけ多くの利用者様と御家族様からの思いを聞き取り、直近の支援を見極め、幅広い支援の方法で対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様を家族の一員として愛情を持って温かく接し、支え合う関係を共有している		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様、利用者様の絆を重視し面会時間も、柔軟性を持ち、情報を共有し、より良い家族関係を保てる様、支援している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れた利用者様の愛用品を居室に持ち込んでもらったり、馴染みの場所に一緒に外出したり、友人や親戚の人達との交流も途切れない様に支援している	地域には利用者が幼いころから馴染みの季節行事が多くあり、利用者はそれを見て季節が過ぎるのを実感している。友人や近所の方が面会に来ている。希望者には、法事に参加したりお墓参りができるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調が許す限り、リビングの円卓で過ごして頂いている。利用者の皆様がなごやかに過ごせる様に職員と共に、家族のように関わり合い、支え合う様な支援につとめている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設のイベントに参加してもらったり、近くに来られた時には立ち寄りいただける様に声かけをし、施設が親戚のように身近に感じてもらえる様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から、利用者様の希望の把握に努め、出来るだけ、その人らしく過ごせる様に、御家族様の意向も取り入れている	利用開始にあたって、センター方式のアセスメント用紙を活用し、利用者の暮らし方の希望やしたいことなどを詳しく把握している。日々の生活においても利用者の意向を伺って、利用者がその人らしく暮らせるように取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様から今までの生活環境について十分に聞き、今後の生活に反映できる様に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家庭にいる様に、利用者様が出来る事に積極的に参加して頂き、残存能力を生かせる様に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や御家族様の意見を十分に聴取し、スタッフ全員で意見交換を行い、利用者様本位の計画を作成している	利用者のアセスメントシートを参考に職員で意見を出し合い、介護計画がつけられている。モニタリングの結果を参考に、半年に1回介護計画を見直している。介護計画が、病気やADLが中心になっている。	介護計画は健康面やADLが主になっているが、本人の生活歴や生きがい、趣味や特技などプラス面からアプローチして、笑顔が増えるプランもあればよいと思われる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有する事で介護計画の見直しに役立っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応出来る様に既存の日課をアレンジする等、柔軟な支援、多機能なサービスが実践できる様に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りやイベント等に積極的に参加し、利用者様が安心して安全で楽しく暮らせる様に支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時に対応してくれるかかりつけ医に定期的往診してもらっている他、医療機関を受診する際も御家族様と相談し早期対応を心がけている	月1回内科のかかりつけ医の往診があり、歯科医は随時の往診がある。その他の医療機関へは、家族が付き添って通院介助を行っているが、家族が来れない場合は、電話で相談し、職員が受診支援を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者や看護師が常に訪問看護師に相談出来る状況にあるので、利用者様が看取りを含め、適切な受診や看護が受けられる様に支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時に入院出来る病院を複数確保しており、入院されても、見舞に訪れ、病状変化を確認、病院関係者と情報交換、相談を実施している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、利用者様や御家族様の意向を十分に確認し、主治医、訪問看護師と連携を取り、看取りを行うように取り組んでいる	看取りの指針が契約書や重要事項説明書に示され、利用開始時に説明している。事業所での看取りの事例もあり、重度化した場合は、利用者や家族の意向を確認し、かかりつけ医と相談しながら職員全員でターミナルケアに取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えてマニュアルを作り、勉強会を実施し、事故発生時に実践できる様にしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	常に災害時の対応について学ぶ機会を設けている。全館スプリンクラーを設置し、消防署の指導を受け、避難訓練を実施している。地域との協力体制も築いている	建物は平屋で、玄関のほかに2ヶ所に出入口(非常口)があり、安心である。年2回、利用者も参加して避難訓練が行われている。敷地内にある井戸の水が飲料水として確保できており、非常食も備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を重視し、トイレ誘導時等も、プライバシーを重視して、十分に気をつけて言葉かけや対応を行っている	職員は、個々の利用者が誇りに思っていることや楽しみにしていることを大切に支援している。トイレ誘導をするときは、一人ひとりの性格に合わせ、さりげなく声かけを行なっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が利用者様とコミュニケーションを多く取り、管理者やスタッフに希望を言える様に配慮している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日々の日課に順ずるだけでなく、一人ひとりのその日の状況に対応し、希望を聞き入れる様に支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、理容師に散髪に来所して頂いたり、男性の方には髭剃りを促したり、衣服も本人の希望を聞いて選んでもらっている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様から、献立の希望を聞いたり、食事が楽しみのひとつになるように工夫をしている。利用者様が準備、片付け等に職員と一緒に参加してもらう様に支援している	食事は、すべて手作りで、管理者がメニューを考え、地元食材にもこだわって作られている。盛り付けも美しく美味しいと、利用者にとっても好評である。2ヶ月に1回は、みんなで外食にでかけている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1時間毎に、水分補給を促し、新鮮な多くの素材を作って、バランスのとれた、バラエティ富んだ食事を、一人ひとりの状況に応じて提供していく		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は1時間毎にトイレ誘導を促し、個々の排泄ペースをつかみ、失禁やオムツの使用を減らせる様、排泄の自立に向けた支援をしている	全員トイレに座って排泄ができるよう、生活リハビリも兼ねて支援している。排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導を行い、排泄の自立支援に取り組んでいる。入居してからオムツ使用がなくなった方もおられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	新鮮な高原野菜を多く使った食事と歩く機会を多くとり、又、十分な水分補給を促し、便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間はあらかじめ決めてあるが体調や希望に合わせて、個々に合った時間や入浴方法(足浴等)を実施している	週2・3回、基本的に午前中に入浴できるようにし、午後はレクリエーションを楽しむことにしている。午後の時間に入浴したい方には、希望に添って対応している。入浴介助は女性職員が行い、ゆっくりリラックスして入ってもらえるよう心がけている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防止するために、起床時は昼食後に休憩時間をとる程度で生活リハビリを充実させているが個々の体調に合わせて適宜、臥床休息を促している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬記録を作成すると同時に変更には、職員に報告し、利用者様の観察変化の確認に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶を入れたり、花の水やり、食事の下ごしらえ、片付け等、個々に応じ出来る事を行ってもら。コーヒーの提案や生活リハビリの中に、その人の得意な事も混じえ、生きがいを育てるように促している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を出来る限り聞き、御家族様にも相談し、買い物や介護タクシーを使ったりして、皆でドライブや外出に出かけている	気候のよいときは、日常的に近所に散歩に出かけている。利用者の希望があれば、近くのスーパーなどに買い物に出かけている。また、地域の季節行事や外食などに出かけている。外出できないときは、日当たりのよいベランダで外気浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に、お金は所持してもらわない事になっているが、どうしても所持したい人は数千円程度にしている。買い物等で欲しい物があれば、施設で立て替え払いをしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、電話をかけたり、手紙のやり取りができる様、支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはホームごたつやソファも置き、習字や写真等も飾り、ゆったりした空間作りを心掛けている。ベランダはウッドデッキになっており、日光浴が出来る。施設の内外に、季節の花を植えたり、飾ったりして明るい空間を作り、心地よく過ごせる様にしている	居間は比較的広く、特注の大きな食卓の他にソファが置かれ、ゆっくり寛ぐことができる。南側に広いベランダがあり、気軽に出て外気浴をすることができる。居間には生け花が飾られ、壁には利用者の写真や作品が飾られている。居間には小型犬が飼われ、利用者の癒しになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルには気の合った利用者様を隣合せて座ってもらい、ホームごたつやソファでも気の合った者同士でゆっくり過ごせる様に配慮している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、使い慣れた物を持ち込んでもらい部屋の中を居心地良く過ごせる様に配置に配慮する	居室には大きなクローゼットがあり、すっきりと服や荷物を片付けることができる。使い慣れたテレビや机、タンスなどが持ち込まれ、壁には家族の写真が飾られて、利用者が居心地良く過ごせる工夫がなされている。また、こまめに換気が行われ、新鮮な空気が取り入れられている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手すりを多く設置し四点杖も利用し出来る限り歩行を促す。車椅子の方も立位を保持して寝たきりにならない様、自立した生活を送れる様に工夫している		